

徐霞客遊記の基礎的研究(四)

—地理情報、事類篇・洞(その2)、全行程(その3) 粵西遊日記(その1)—

薄井俊二 埼玉大学教育学部言語文化専修国語分野

キーワード：徐霞客遊記、徐弘祖、洞

1. はじめに

本稿は、明末の地理記述家である徐霞客の「遊記」について、基礎的な検討を加えるもので、次の三部構成からなる。第1部は「徐霞客遊記の地理情報」と題して、「浙遊日記」を素材として、遊記記載の地理情報の精度を検討する。第2部は「事類篇・洞(その2)」と題して、「洞穴」に関する遊記の記述を、江右遊日記と楚遊日記について検討する。第3部は「全行程(その3)」と題して、粵西遊日記前半記載の行程について詳述する。

2. 第1部 徐霞客遊記の地理情報

2-1. 序説

徐霞客が、詳細な旅行日記(「遊記」と略)を残していることは知られており、そこに記載されている種々の情報は、一次情報として大変貴重なものとされてきた。中でも、地名や施設名、地点と地点との間の距離や方角などの地理情報も詳細を極めているが、それがどの程度の精度のものなのかについては、これまで十分に検討されることがなかった。

そこで本稿において、徐霞客遊記に記されている地理情報について、現在目にしうる地図などと照合して、それがどの程度の精度のものかを確認することを試みる。

素材としては、遊記巻二に収録されている「浙遊日記」を取り上げる。それは浙江省部分については、かなり精度の高い地図を入手していることによる。

現在中国では、五万分一などの地形図は制作されてはいるものの、国家機密扱いを受けており、研究者であっても中々利用できない。そこで、戦前の陸軍などが作成した地形図(外邦図)を代用として用いることになるのだが、浙江省部分については、この五万分一図を全てコピーで入手できており、利用が可能である。

また、清末には各省ごとに詳細な地図が作製された。全省輿図と称されるこの地図は、省によって精密度の違いが大きいだが、浙江省を対象とする「浙江全省輿図並水陸道里記」(「全省輿図」と略)は、フリーハンドの地図ながらかなり精度が高いものとなっている。そこでこの地図も、地理情報の確認に使用できる。

現代の地図としては、一般向けに作られている省別地図帳の他に、インターネット上の地図として「百度(バイドゥ)」の地図と、グーグルが公開しているグーグルアースが、かなり詳細な地名などを記載している。

先ず「2-3」で、地名や施設名などの地理情報について、遊記に記載があるものが、諸地図で確

認できるかどうかの検討を行う。次に「2-4」で、二地点間の距離について遊記が記載している情報と、地図上で計測できるものとの比較を行う。それらを総合して、遊記の地理情報の確かさを明らかにする。

2-2. 遊記記載の大まかな道のり

崇禎9年(1639)

9月

- 19日 南直隸常州府江陰県馬鎮の自宅から出発(舟行)。無錫県域に入り、船中泊。
- 20日 無錫県城滞在。
- 21日 無錫県城から出発(舟行)、蘇州府域に入り、蘇州府城で泊。
蘇州府城滞在(～23日)。
- 23日 蘇州府城から出発(舟行)、松江府域に入り、呉淞江上で泊。
- 24日 舟行で、青浦県佘山に陳継儒を訪ね、泊。
- 25日 佘山から出発(舟行)。浙江省嘉興府域に入り、嘉善県蔣家湾で泊。
- 26日 舟行で、嘉興府嘉善県と蘇州府呉江県との境をなす瀾溪を溯り、呉店村浜で泊。
- 27日 舟行で、嘉興府桐郷県烏鎮を経て、徳清県曹村で泊。
- 28日 舟行で、杭州府域に入り、杭州府城で泊。
杭州府城滞在(～10月2日)。

10月

- 2日 杭州府城から出発(陸行)。余杭県城で泊。
- 3日 余杭県城から出発(陸行)、臨安県域に入り、全張村で泊。
- 4日 全張村から出発(陸行)、新城県域に入り、洞山の鍾乳洞を探訪。太平橋で泊。
- 5日 顧従の王二が逃亡。太平橋から出発(陸行)、嚴州府域に入り、応渚埠のやや北で舟に乗る(舟行)。桐廬県城で泊。
- 6日 富春江を遡上(舟行)、建徳県城で泊。
- 7日 蘭江を遡上(舟行)、金華府域に入り、蘭溪県城で泊。
- 8日 舟行で、金華県城外で泊。
- 9日 陸行で、金華山探訪(～11日)。
- 11日 金華山を蘭溪へ下り、そこから舟行。すぐ泊。
- 12日 衢江を西へ遡上(舟行)、蘭溪県域の裘家堰あたりで泊。
- 13日 舟行、衢州府域に入り、龍遊県で泊。
- 14日 舟行、西安県楊村で泊。
- 15日 舟行、常山溪を遡上、常山県境で泊。
- 16日 舟行、常山県域に入り、常山県城で上陸。陸行、十五里で泊。

2-3. 「浙遊日記」の地名情報について

(1) 地名調査

遊記の地名情報について、府県名など紛れのないものは省き、村落名・橋等の施設名について、以下に表にして示す。

距離の記載が始まるのは、9月25日の佘山出発以降であるので、そこからを調査対象とした。

徐霞客遊記・全省輿図・外邦図・現代地図の順に記し、記載が見あたらない者は「不詳」と記した。全省輿図は、浙江省部分だけである。

	徐霞客遊記 (1638)	全省輿図 (1894)	外邦図 (1900代前半)	現代地図 (2010頃)
1	崑山	—	崑山	崑山
2	内村	—	不詳	不詳
3	青洋江	—	不詳	青陽港
4	江	—	吳淞江	吳淞江
5	綠葭浜	—	陸家濱 葭葭濱鎮 ^{注1}	陸家鎮
6	佘山	—	佘山	佘山
7	仁山	—	辰山	辰山
8	天馬山	—	天馬山	天馬山
9	横山	—	不詳	横山
10	小崑山	—	小崑山	小崑山
11	柳湖	—	柳湖	柳河
12	慶安橋	—	不詳	不詳
13	章練塘	—	童練塘 ^{注2}	練塘鎮
14	蔣家灣	施家灣	盛家灣	盛家灣 蔣灣
15	丁家宅	丁家柵	丁家柵	丁柵
16	二蕩 ^{注3}	不詳	不詳	不詳
17	唐母村	陶墓塘	不詳	唐母
18	王江涇	王江涇	王江涇	王江涇
19	瀾溪	瀾溪塘	不詳	京杭運河
20	前馬頭	不詳	不詳	錢碼頭
21	師姑橋	不詳	不詳	思古橋
22	十八里橋	不詳	不詳	不詳
23	吳店村浜	不詳	胡莊	胡店村
24	烏鎮	烏鎮	烏鎮	烏鎮
25	連市	槌市	槌市	練市
26	寒山橋	含山	含山	含山
27	新市	新市	新市	新市
28	曹村	韶村 ^{注4}	曹村	不詳
29	唐棲	唐棲	塘棲	塘棲
30	北新關	不詳	不詳	不詳
31	櫻木場	不詳	松木場	不詳
32	觀音關	觀音橋	不詳	不詳

33	女兒橋	女兒橋	女兒橋	不詳
34	老人鋪	老人橋	老人鋪	老人鋪
35	倉前	倉前	倉前	倉前
36	丁橋鋪	丁公橋	丁橋	丁公村
37	馬橋	杜壩橋	大木橋	不詳
38	青山	青山	青山	青山
39	十錦亭	十錦亭	不詳	不詳
40	長橋	長橋	長橋	長橋
41	呂家巷	不詳	不詳	不詳
42	皇潭	橫潭	橫潭	橫潭
43	高坎	高坎	高坎 ^{注5}	高坎
44	裊柳塢	不詳	不詳	不詳
45	下圩橋	下輿橋	下魚橋	夏禹街 夏家橋
46	全張	前張	前張	前張
47	新嶺	新嶺	新嶺	不詳
48	乾塢嶺	甘塢里	甘塢里	甘塢嶺
49	五尖山	五尖山	五尖山	不詳
50	唐家橋	唐家橋	唐家橋	塘家橋
51	華龍橋	不詳	不詳	不詳
52	沙宕	不詳	不詳	不詳
53	趙安橋	趙安橋	趙安橋	不詳
54	三九山	三九山	三九山	不詳
55	後葉塢	不詳	後楊塢	下塘塢
56	白粉牆	白粉牆嶺	不詳	白粉塘
57	羅村橋	羅宅橋	羅宅橋	羅宅村
58	鉢孟橋	不詳	不詳	不詳
59	龍門龕	不詳	龍門橋	龍門橋
60	四仙傳道嶺	不詳	不詳	不詳
61	洞山	洞下村	不詳	洞山洞
62	太平橋	不詳	太平橋	太平橋
63	馬嶺	馬嶺	馬嶺	馬嶺
64	內楮村塢	不詳	朱村塢	朱村塢
65	應渚埠	不詳	印渚鎮	印渚鎮
66	外楮村塢	不詳	不詳	不詳
67	兌口橋	兌口橋	兌口橋	兌口橋
68	板橋	板橋村	板橋村	徐橋村
69	保安坪	保安平	保安平	保安村

70	玉澗橋 排石	玉間橋	排石橋	不詳
71	唐家拱	不詳	不詳	不詳
72	麻汊埠	不詳	不詳	不詳
73	鋪頭	畢浦鎮	畢浦鎮	畢浦鄉
74	焦山	焦山	焦山	焦山
75	清私口	不詳	不詳	清渚港
76	七里籠	七里瀧江	七里瀧	七里瀨
77	嚴磯	子陵祠 釣台	不詳	嚴子陵釣台
78	烏石關	烏龍山	不詳	烏関灘
79	東關	東關	東關	東關
80	香頭	不詳	不詳	不詳
81	下馬頭	不詳	不詳	不詳
82	羅店	羅店	羅店	羅店
83	芙蓉峯	芙蓉峯	尖峯山	尖峯山
84	楊家山	楊家山	不詳	不詳
85	白望山	白望山	不詳	白望山
86	鹿田寺	鹿田村	陸殿	鹿田
87	鬪鷄巖	鬪鷄巖	不詳	不詳
88	山橋	不詳	不詳	山橋殿
89	赤松宮	赤松宮	赤松山紫岩殿	赤松道院
90	棋盤石	石棋盤	不詳	不詳
91	西玉壺	西玉壺山	不詳	不詳
92	裏水源	不詳	不詳	不詳
93	盤泉	盤泉村	龍泉村	不詳
94	三望尖	不詳	不詳	不詳
95	朱莊	不詳	不詳	不詳
96	講堂洞	不詳	講堂洞	講堂洞
97	玲瓏巖	玲瓏巖	不詳	不詳
98	紐杭	紐杭	不詳	不詳
99	思山祠	不詳	不詳	不詳
100	洞源寺	不詳	上洞寺	上洞寺
101	白坑	白杭村	白坑	白坑
102	石塔嶺	不詳	不詳	不詳
103	洪橋	不詳	不詳	不詳
104	橫山頭	橫山村	橫山村	橫山村
105	青草坑	不詳	不詳	不詳

106	裘家堰	裘家渡	裘家埠	裘家村
107	湖鎮	湖鎮巡檢署	湖鎮	湖鎮
108	安仁	安仁街市	安仁街	安仁
109	楊村	不詳	楊家	不詳
110	樟樹潭	樟樹潭	樟樹潭	樟潭鎮
111	鷄鳴山	鷄鳴山	鷄鳴山	鷄鳴埠頭村
112	常山溪口	雙港口	雙港口	雙港口
113	花椒山	胡椒山	胡家山	岩頭山
114	黃埠街	航埠	航埠	航埠
115	溝溪灘	不詳	溝溪口	不詳
116	辛家鋪	不詳	不詳	不詳
117	十五里	十五里	十五里	不詳

注1：二万五千分一図による。

注2：童は、章の誤表記ではないか。

注3：これは固有名詞ではなく、一般名詞かも知れない。

注4：韶は、曹の誤表記ではないか。

注5：坑は、坎の誤表記ではないか。

(2) 考察

取り上げた素材は、村落名や橋梁名など117点。

このうち、徐霞客遊記にのみ名前が見え、後の地図に見えないものが23点、なんらかの地図で所在が確認できるものが、94点。全体の80%の地名が再確認できた。後の地図に見えないもののうち、16番は一般名詞かと思われ、12・22・51・58・103番の橋梁は掛け替えで名前が変わったりすることもあることを考え合わせると、未確認のものは17点となり、未確認率は15%を切る。

比較する数値がないが、徐霞客遊記の地名情報は、かなり精度が高いものであることが確かめられたと言えよう。

2-4. 「浙遊日記」の距離情報について

(1) 距離情報調査

遊記記載の距離情報について、以下に表にして示す。距離の記載が始まるのは、9月25日の佘山出発以降であるので、そこからを調査対象とした。

遊記記載の里数を記し、それをkmに換算する。明代の換算値を用い、1里を、0.576kmとする。

距離の計測は「外邦図」を用い、マップメーターで計測した。（「MAP-METER COMCURVE 10 (Ver.3)」小泉測器製作所を使用）

遊記の距離情報と計測値との差を「誤差」として記し、「誤差」を「計測値」で除した値を「誤差率」として記す。

「誤差の程度」として、誤差率が10%未満のものに「◎」、誤差率が10～19%のものに「○」を記し、誤差率が50%以上のものに「●」を附した。

整理番号		起点	終点	遊記の里数	km換算	計測値	誤差	誤差率	誤差の程度
1	9/23	蘇州府城	崑山	70	40.3	29	11.32	39%	
2	9/24	吳淞江岸	綠葭浜	20	11.5	13	-1.48	-11%	○
3	9/25	佘山	仁山	3	1.7	2	-0.27	-14%	○
4		仁山	天馬山	3	1.7	2	-0.27	-14%	○
5		天馬山	小崑山	5	2.9	4.5	-1.62	-36%	
6		小崑山	泖湖	3	1.7	4	-2.27	-57%	●
7		泖湖	章練塘	10	5.8	4	1.76	44%	
8		章練塘	蔣家灣	10	5.8	7	-1.24	-18%	○
9	9/26	丁家宅	西塘	15	8.6	9	-0.36	-4%	◎
10		西塘	王江涇	28	16.1	18	-1.87	-10%	○
11		王江涇	瀾溪の中	20	11.5	8.5	3.02	36%	
12		瀾溪の中	吳店村浜	28	16.1	16	0.13	1%	◎
13	9/27	吳店村浜	烏鎮	20	11.5	9	2.52	28%	
14		烏鎮	連市	18	10.4	10	0.37	4%	◎
15		連市	寒山橋	18	10.4	9	1.37	15%	○
16		寒山橋	新市	18	10.4	8.5	1.87	22%	
17		新市	曹村	15	8.6	5	3.64	73%	●
18	9/28	曹村	唐棲	25	14.4	14	0.40	3%	◎
19	9/28	唐棲	櫻木場	57	32.8	27	5.83	22%	
20	10/2	櫻木場	老人舗	25	14.4	11.5	2.90	25%	
21		老人舗	倉前	5	2.9	5	-2.12	-42%	
22		倉前	餘杭県城	10	5.8	6	-0.24	-4%	◎
23	10/3	餘杭県城	丁橋舗	10	5.8	6	-0.24	-4%	◎
24		丁橋舗	青山	12	6.9	7	-0.09	-1%	◎
25		青山	長橋	16	9.2	8	1.22	15%	○
26		長橋	臨安県城	1	0.6	2	-1.42	-71%	●
27		臨安県城	皇潭	2	1.2	2	-0.85	-42%	
28		皇潭	高坎	8	4.6	4	0.61	15%	○
29		高坎	全張	10	5.8	6	-0.24	-4%	◎
30	10/4	全張	乾塢嶺	8	4.6	2	2.61	130%	●
31		乾塢嶺	新城県界	5	2.9	2	0.88	44%	
32		新城県境界	趙安橋	7	4.0	4	0.03	1%	◎
33		後葉塢	羅村橋	11	6.3	4	2.34	58%	●
34		羅村橋	太平橋	6	3.5	3	0.46	15%	○
35	10/5	太平橋	馬嶺巔	3	1.7	2	-0.27	-14%	○

36		馬嶺巔	兌口橋	10	5.8	5	0.76	15%	○
37		兌口橋	保安坪	5	2.9	2	0.88	44%	
38		保安坪	玉澗橋	1	0.6	1	-0.42	-42%	
39		玉澗橋	唐家拱	2	1.2	3	-1.85	-62%	●
40		唐家拱	分水県城	10	5.8	5	0.76	15%	○
41		分水県城	鋪頭	20	11.5	10	1.52	15%	○
42		鋪頭	焦山	10	5.8	5	0.76	15%	○
43		焦山	桐廬県城	50	28.8	25	3.80	15%	○
44	10/6	桐廬県城	建徳県城	70	40.3	37	3.32	9%	◎
45	10/7	建徳県城	蘭溪県城	90	51.8	44	7.84	18%	○
46	10/8	蘭溪県城	金華府城	60	34.6	28	6.56	23%	
47	10/11	蘭溪県城	横山頭	5	2.9	2	0.88	44%	
48	10/12	横山頭	裘家堰	35	20.2	15	5.16	34%	
49	10/13	裘家堰	胡鎮	20	11.5	9	2.52	28%	
50		胡鎮	龍遊県城	20	11.5	9	2.52	28%	
51	10/14	龍遊県城	安仁	45	25.9	20	5.92	30%	
52		安仁	楊村	10	5.8	5	0.76	15%	○
53	10/15	楊村	樟樹潭	10	5.8	3	2.76	92%	●
54		樟樹潭	衢州府城	15	8.6	11	-2.36	-21%	
55		衢州府城	常山溪口	3	1.7	2	-0.27	-14%	○
56		常山溪口	花椒山	2	1.2	2	-0.85	-42%	
57		花椒山	黄埠街	15	8.6	9	-0.36	-4%	◎
58		黄埠街	溝溪灘	15	8.6	5	3.64	73%	●
59	10/16	溝溪灘	常山県城	45	25.9	27	-1.08	-4%	◎
60		常山県城	十五里	15	8.6	7.5	1.14	15%	○

(2) 考察

取り上げた情報は60点。

誤差率が10%未満のものは12点。全体の20%である。誤差率が20%未満のものは31点で、全体の52%。半数を超える。誤差率が50%を超えるものは8点で、全体の13%であった。

遊記記載の距離情報が、何に基づいて記されているかは明らかではない。伝聞情報や実感によるものと推測される。また里数は整数で記されていることから、概数を記していると考えられる。

このことを踏まえて上記の数値を考えると、地名情報ほど正確ではないものの、ある程度実態に近い数値を記していることが出来よう。

(3) 水路での移動時間について

主に水路を連続して使用しているのは、「蘇州から佘山（9月23日から24日）」「佘山から杭州（9月26日から28日）」「蘭溪から常山（10月12日から16日）」である。そこで、これらの日数と移動距離との平均を計算してみる。

「蘇州から余山」は、100里（57.6km）を2日間。

「余山から杭州」は239里（137.7km）を4日間。

「蘭溪から常山」は235里（135.4km）を5日間。

合計で、574里（330.7km）を11日間。

一日平均で、52里（30km）。

●使用した資料

○遊記本文

褚紹唐・呉王寿整理『徐霞客遊記』上海古籍出版社、1984年

○全省輿図

清宗源瀚等撰『浙江全省輿図水陸道里記』輿圖総局、1894年

○外邦図

・五万分一図

「新市鎮（杭州近傍十二号）」「塘楼鎮（同十三号）」「杭県城（同十四号）」「余杭県城（同二十一号）」「臨安県城（同二十七号）」「鷄籠山（同二十八号）」「後渚橋（同三十三号）」「於潜県治（同三十四号）」「印渚鎮（蕪湖三十号）」「分水県治（徽州二十一号）」「芝厦鎮（同二十二号）」「桐廬県治（徽州十一号）」「蘆茨埠（同十二号）」「梓州村（同十三号）」「建徳県城（同二十三号）」「三河埠（同二十四号）」「蘭溪県城（同二十五号）」「湯溪県城（同二十六号）」「金華県城（同十六号）」「曹宅市（同十五号）」「龍游県城（同三十六号）」「杜沢鎮（同四十六号）」「大洲鎮（同四十七号）」「衢県城（同五十七号）」「常山県城（同六十七号）」「灰埠（同七十七号）」

・十万分一図

「無錫県（上海百三十九号）」「蘇州（同十六号）」「太倉（同十一号）」「上海（同十二号）」「金山県（同十三号）」「嘉興県（同十八号）」「湖州（同二十三号）」「崇徳県（同二十四号）」「杭州（同二十五号）」「余杭県（蕪湖五号）」

・二万五千分一図

「葦葭濱鎮（上海近傍西北部八号）」

○現代地図

『江浙滬地図集』山東省地図出版社、2009年

『浙江省旅游交通地図冊』成都地図出版社、2005年

『浙江及周边省区公路網地図集』中国地図出版社、2012年

○インターネット上の地図類

百度BAI-DU

Google Earth

浙遊日記旅程図 崇禎9 (1836) 年9月19日~10月16日

舟行 陸行



“1:1000000 MAP OF CHINA WUHAN · SHANHAII” 中国測繪工程規劃設計中心編制度、1991、より作図

3. 第2部 徐霞客遊記一事類篇・洞（その2）：「江右遊日記」「楚遊日記」

第2部では、徐霞客遊記に記載の洞穴の記事について、検討する。本稿では江右遊日記と楚遊日記を取り上げる。

3-1. 江右遊日記

徐霞客遊記巻二上後半は「江右遊日記」。江西における崇禎9(1636)年10月18日から同10(1637)年1月10日までの記録である。

(1) 洞穴の記述

①龍虎山 広信府貴溪県：1636年10月25日～26日

・龍虎山はいわゆる丹霞地貌。堆積岩の岩山が林立し、岩肌に横様に裂け目ができ、洞穴を形成する。しかし、鍾乳洞のように深く長いものではない。まとめて「1」と数える。

・25日、馬祖巖。

狭義の龍虎山の北に位置し、新旧ふたつある。新巖には岩穴はなし。

・旧馬祖巖には、横様に深く裂けた穴がある。僧侶が二間の住まいとしており、家畜を飼うための囲いが穴を塞ぐほどに満ちている。登ってみると、臭くて汚さに耐えられないほどだった。

・26日、龍虎山。

・馬祖巖同様、横様に裂ける洞穴がある。馬祖ほど深くないが、汚いものに満たされてはいない。また崖の下に口を開けている洞穴は、むしろ「而清淨幽渺、忽有霄壤之異」。

②從姑山 建昌府南城県：同11月4日

・南城県城東部に位置する。入洞した洞穴は一件、観察した洞穴は一件。「2」と数える。

・4日、入洞。洞名の記載なし。「亭後鑿石、懸梯而上」したところ、「洞口が漏斗のように狭くなっていた」、そこから「蛇伏乃入」したところ「其中高穹而寛」であった。「出洞、仍下石級」と記述。名もない洞穴についての簡略な記述だが、洞穴の位置、アクセス、洞口の形と大きさ、入洞方法、洞内の様子などがきちんと記されている。

・4日：天柱峯の洞とのみあり、洞穴名は記さず。入洞はせず、遠くからの観察。

「内有石竇、直上三丈、正與南隅懸崖之洞相對。」と、洞穴の出口の方向が、谷の向かい側にある洞穴と相對していることを記す。片方の洞穴から流れ出た「氣」が、向かい側の洞穴に注ぐと見ていたのか。

③軍峯山 建昌府南豊県：同11月12日

・おそらく崩落によるドーム型の洞。「1」と数える。

・山頂付近の著棋峯の峡谷から下を見ると、穹然とした「洞」があった。そこまで手探りで下りたが、かなり時間がかかった。洞そのものについての描写はない。

④梅田洞 袁州府永新県：同12月29日

・梅田山の周辺は、石灰石が切り出され、焼け出されていて、趣がないことを嘆く。

- ・鍾乳洞で、四つの洞穴に入洞。「1」と数える。
- ・灯りを用意しておらず、深くまでは行けなかった。
- ・第1洞。詳細な洞内の描写。五重の門をくぐり、様々な二次生成物、うっすらと差し込む光など。豊かな描写あり。
- ・第2洞。真っ暗。第1洞ほどの「瑰異宏麗の状」はない。
- ・第2洞かたわらの穴。高さ五六尺、はば尺五ほどの狭い隙間。「蛇遊猿倒」して入り、「蛇退」して返る。
- ・第3洞（合掌洞）。石柱や垂れるカーテンあり。灯りがなく、高い所は見えない。
- ・第4洞。前三者とは少し離れる。石筍や鍾乳石あり。「接せんと欲して而も又た接せざるもの」であった。

⑤石城洞 袁州府萍鄉県：1637年1月5日

- ・武功山から南に下ったところにある。鍾乳洞だと思われる。「1」と数える。
- ・1月5日、入洞。
- ・底本では、洞前に庵があり、僧侶が洞穴の門を管理していること、僧侶の案内で入洞したことなどを記すに留まるが、乾隆本では、内部の詳細な描写を載せる。ここでも玉華洞の時と同じく、浙江宜興の張公洞と比較検討し、洞内の高さは張公洞と同程度だが、深さ広さはその倍ほどあるという。鍾乳石、石柱や石筍などの多彩な様を記述するが、「蓮華のごとき」ものとは、フローストーンではないか。

⑥その他

⑥1. 亀峯 広信府弋陽県：1636年10月21日～21日

- ・この洞穴は、結局入洞していないので、数には数えない。
- ・21日：亀峯の諸峯について、遊行する前に、貫心和尚のレクチャーを受ける中で、山谷の外側に、「巖上有泉、是名水簾洞。」と。実際に訪問して「東向入至雙劍疊龜之下、見有路可入水簾洞、第昏黑莫辨、亟逾嶺入方丈焉」とあり、水簾洞への道は確認したものの、日が暮れて時間切れ。訪問観察は断念。他に「其谷四面峯攢、獨成洞窟」と、四方を山に囲まれた場所を「洞窟」と表現しているが、ここは「洞穴」ではない。「別天地=洞天」くらいの意味で用いているのであろう。
- ・22日：「摩尼洞」との名前のみ記録。

⑥2. 麻姑山 撫州府宜黄県：同11月18日

- ・名前を記すのみ。数には数えない。
- ・18日：「越嶺二里爲丹霞洞」

⑥3. 武功山 袁州府萍鄉県：1637年1月4日

- ・外から観察したのみ、数には数えない。
- ・4日：張り出した岩の下部が「洞」状になっており、四人程度収容できると述べる。またその上に金雞洞があるといい、「未之入也」という。

⑥4. 禾山 袁州府永新県：同1月9日

- ・行かなかったというので、数には数えない。
- ・9日：禾山西部の橋の上あたりに「其處有元陽觀元陽洞、洞外列三門、内可深入、以不知竟去。」「不知」で行かなかったというが、若干の洞穴情報を書いているので、後になって伝聞で存在を知っ

たのかもしれない。

(2) 江右遊日記のまとめ

江右遊日記で言及・検討されている洞穴を「6」とした。内訳は、龍虎山1、従姑山2、軍峯山1、梅田洞1、石城洞1である。鍾乳洞が、梅田洞と石城洞で、いずれも詳細な描写がなされている。浅い丹霞地貌の洞が龍虎山。従姑山の二洞には「蛇伏」して入洞。もう一洞は観察だけだが、二つの洞口が向かい合っていることを指摘している。軍峯山の洞は、ドーム型の崩落洞であった。

先行研究では、徐霞客が考察した江西の洞穴の数について、唐錫仁・楊文衡⁽¹⁾は、石灰岩洞で「9」とし、内訳は記さない。褚紹唐⁽²⁾は「5」とし、「梅田洞4」「石城洞1」とする。つまり梅田洞と石城洞のふたつだけが徐霞客の観察考察の対象だとしている。確かに入洞し詳細な記事を書いているのはこの二洞のみである。

3-2. 楚遊日記

遊記の巻二下は、「楚遊日記」。湖広（湖南）における、崇禎10年（1637）1月11日から閏4月7日までの記録。湖南における洞穴は、すべてカルスト地形の石灰岩溶洞（鍾乳洞）である。

(1) 洞穴の記述

①雲陽山 長沙府茶陵州：1637年1月16日～17日

- ・茶陵州城の西に雲陽山があり、麻葉洞など三つの洞穴がある。
- ・雲陽山で「3」と数える。

①1. 秦人洞：16日入洞

- ・東嶺に登ると、ドリネらしき「九十九穴」がある。

巨大なすり鉢の底に、切り立った岩山にはさまれたV字谷があり、澗が流れる。澗は西洞から流れ出て、東洞に注ぐ。

- ・午前中、ガイドが東洞に連れて行くが、水で溢れ、入洞できない。ガイドの家でお昼をいただくと、長老が、東ではなく、西に行くべきとし、自ら案内してくれる。
- ・西洞は、水深が浅く、入洞して探索する。
- ・東嶺の東山麓から澗がわき出しているのが見える。村人は、その水を堰き止めてダムにし灌漑をしている。

①2. 上清潭（上清洞）：17日入洞

- ・地元民の情報から「上清潭（洞）」を知り探訪へ。
- ・麻葉洞同様、神龍の住みかなので、入ってはいけないと言われているという。水洞で、少し入ってみるが、炬も持ち込めず、水も冷たいのですぐに出る。秦人洞は水洞だが、それほど寒くなかったことを回顧。

①3. 麻葉洞：17日入洞

- ・麻葉洞遊は、鄭祖安・蔣明宏主編『徐霞客与山水文化』の「第四篇遊名山勝洞」において、紹介されている七つの洞穴遊のひとつ。

- ・村人にガイドを頼むが「神龍」「精怪」を恐れてだれも引き受けない。やっと一人引き受けたが、霞客が道士ではなく儒者であると聞き、断られる。
- ・その男の家に荷物を預け、顧僕と二人で入ることになると、村中のものが、仕事をほったらかしにして霞客の入洞を見守ってきた。
- ・顧僕と炬を以て麻葉洞探索。典型的な鍾乳洞で、乾洞だが、様々な二次生成物が展開する奇勝であり、詳細な記述がある。
- ・洞から出ると、見物する村人が数十人増えていた。「あまりに帰ってこないで、てっきり怪物に食われてしまったのだろう」と思っていたが、入るに入れず、帰るに帰れずにたたずんでいたのだという。霞客は、自分で勝手に入ったのだから自己責任だとは思ったが、待っていてくれた村人にお礼を言った。しかし内心では、なぜ洞を怖がるのだろうと、不思議がっている。

②永州府南部の諸洞 永州府零陵県、道州、江華県：同年3月14日～24日

- ・徐霞客は遊記3月27日条で、永州南部で入洞した洞穴に関するランク付けを行い「永南洞目」（以下「洞目」）としてまとめている。それによれば、「12」を数える。その中には現行の遊記本文に入洞の記事がないものもあるが、入洞したことは間違いなく、それらも含めて数える。
- ・洞目のうち、九嶷山の「3」は、別項を起こすので、ここでは数えない。
- ・江華県域の小洞は、洞目にはないが、入洞しているので数える。
- ・永州府南部で「10」と数える。
- ・このうち、「5」洞は、現行遊記本文には記事がない。
- ・「永南洞目」のランキングを「第〇位」として付記する。

②1. 朝陽巖の水洞 零陵県：14日観察

- ・「第五位」。
- ・零陵県城北部の芝山で、江沿いの「朝陽巖」に登り、江側へ下ると「水洞」があった。
- ・直径二丈（6m）あまりで、内側は「平整軒潔」。吹き出す水は、玉を吹いて江に注ぎ、朝陽巖とハーモニーをなす。入れそうだったが、炬もなく、船人が頻りに呼ぶので、入口だけで奥へは入らなかった。

②2. 澹巖 零陵県：15日入洞

- ・「第六位」。
- ・永州府の南二十五里。
- ・二峯が聳え、西峯の南に洞が口を開ける。
- ・東向きに口を開け、数百人が入れるほどの広さがある。中は明るく奥深い。内部の北の底に鍾乳石らしきものが垂れ、黄山谷ら文人の題辭が刻される。
- ・洞を出ると、西南の龍洞を源とする進賢江が流れ、平和な麻桑畑が広がる。
- ・進賢江の側ら、澹巖から二里のところのところに別の水洞がある。炬がなく、入口を訪れただけらしい。この洞は数えない。
- ・龍洞は、澹巖から西南に七十里という。ここは訪問せず。

②3. 華巖 道州：18日入洞

- ・「第九位」。
- ・道州城の南十里ほど。
- ・小水が洞口から出る。洞内は、水音はするが、水は見えない。少し入ると暗闇となる。炬を求めて探索する時間がなく、それ以上入らず。地元人の話では、炬一本で探訪できる程度であると。

②4. 月巖 道州：18日観察

- ・「第一位」。
- ・道州の西部、広西との境近く。
- ・洞穴ではなく、岩山に、満月のようにぽっかりと開いた穴。

②5. 月巖南嶺の水洞 道州：19日記事なし

- ・「第十位」。
- ・現行の遊記本文には「小暑洞」の名前がある。あるいはこのことか。しかしこの洞について、現行遊記の本文には、名前以外の記事はない。

②6. 麻拐巖 江華県：20日記事なし

- ・「第十二位」。
- ・江華県城の東南一里。
- ・現行の遊記本文には「麻拐巖」の名前をあげるが、記事はない。
- ・白馬宮という訪問地の東に見える呉望山に、秦洞があり「甚奇」らしいものの、訪ねることができなかった。

②7. 蓮華洞 江華県：21日入洞

- ・「第三位」。
- ・江華県城西部に大仏嶺があり、山中に蓮華洞がある。
- ・導者を雇い、六つもの炬を作って探索。
- ・洞目にあげられているが、現行の遊記本文には、入洞中の記事は全くない。

②8. 大仏嶺側の水洞 江華県：記事なし

- ・「第七位」。
- ・洞目にあげられているが、現行の遊記には名前すら見えない。

②9. 獅子巖洞 江華県：21日記事なし

- ・「第四位」。
- ・江華県城のやや南に重元観あり。その南一里。
- ・「入洞」とのみ言い、現行の遊記本文には入洞中の記事はない。

②10. 江華県域の小洞：23日入洞

- ・道州と寧遠の境近くで、路傍に小洞あり。

- ・腰をかかめて入ると、水が流れており、その水は南の穴から外へ出ていた。「1」と数える。

③. 九嶷山 永州府寧遠県：3月24日～30日滞在

- ・寧遠南部の九嶷山は、典型的なカルスト地形の山。円錐型の尖った岩山が立ち並び、鍾乳洞が口を開ける。
- ・斜巖（紫霞巖）・飛龍巖・玉瑄巖（書字巖）の三巖があるが、玉瑄巖（石）は「第八位」にランクされているものの、洞穴ではなく岩である。九嶷山で「3」と数える。
- ・徐霞客は、山奥の三分石を訪ねた28、29日以外は、斜巖を宿泊所としている。

③1. 斜巖（紫霞巖）：24日入洞

- ・「第二位」。
- ・舜帝廟から少し奥の岩山の麓。
- ・入口は、崩落によるドームをなす。
- ・夜、炬を掲げて探訪。豊かな描写あり。石田（リムストーンプール）や鍾乳石、石筍が立ち並ぶ。広い教学堂、泥濘の河や澄んだ河、羊脂のように白い「雪洞」や風が吹く「風洞」など。
普段人が行かないところも無理して入るが、草鞋がすり減り、引き返す。
- ・水流が広東省まで続いているという地元民の認識を否定。
- ・洞内の別洞である楊梅洞では、ヤマモモの実のような石を観察。洞窟真珠の類か。
- ・「永南洞目」の作成 27日

③2. 飛龍巖：24日入洞

- ・「第十一位」。
- ・斜巖から東にあるという。岩山の半ばが陥落しており、斜巖の南岩のよう。石の坂が中に懸っているが、宛轉とした紋様はなし。宋人の石刻がある。

③3. 九亀進巖：28日観察

- ・山奥の三分石へ向かう途上で見る。
- ・西向きに穴を開ける洞穴へ、水が流れ込むが、九つの岩山が水面から頭を出している。その様が、九匹の亀が進んでいるかのようなことからの命名。

③4. 玉瑄巖巖：23日観察

- ・「第八位」。
- ・巖であり、洞穴ではないので、数えない。

④. 龍洞 衡州府臨武県：4月4日入洞

- ・臨武県城の北。
- ・かねてより訪ねたかったところで、風邪気味なのに押して行く。
- ・蔣氏の居所の立ち並ぶ裏山の半ば、緑の中に口を開ける。
- ・洞内は、屈折しかつ明爽、宏麗にしてかつ玲瓏。衆奇を壓倒す。
- ・炬をともして、更に奥に入る（二洞目）。洞窟湖があり、堤のような盛り上がり、水面すれす

れにある。おそらくリムストーンブルの縁。そこを裾をからげて歩いて進む。水底に白い龍が横たわる。その横に、宝珠とよばれる、一斗ばかりの石がある。龍が吐いたよう。その隣には、中が凹んだ石がある。堤がつきたところで、進めなくなるも、もっと先には更に異境が広がっているようだ。

- ・一人でもう一つの洞に入るが、ここも「一天」とよびうるすばらしさ。
- ・これまで探索した洞の中で最高の評価。月巖よりも上だと評価。
- ・三洞に入洞しているが「1」と数える。

⑤ 鳳凰巖 衡州府臨武県：4月5日観察

- ・臨武県周辺の掛榜山にあり。
- ・宋人王淮錫（不詳）の記録を頼りに、鳳凰巖（秀巖）を探訪。水が噴出し、水位が高くて入洞できない。伝聞では、何丈か入ると、山を突き抜けるという。岩山に登って見下ろすも、とうてい入れる道はない（「王淮錫は嘘つきだ」）。
- ・掛榜山の南嶺の側らに別の洞穴発見。樵夫は、穴は隣の山に通じているというが、入ってみると浅く行き止まりだった。

⑥ 野石巖 彬州府宜章県：4月8日入洞

- ・宜章県城の北にあり。
- ・野石巖上に「岩穴」があり、匍匐して入る規模。
- ・盗賊が襲来したので、その穴に隠れる。

⑦ 白鹿洞 彬州府彬州：4月10日入洞

- ・彬州県城の東にあり。
- ・蘇仙嶺に行こうとして、麓の乳仙宮を訪ねたところ、宮後に白鹿洞があると聞き、先ず入洞。
- ・身を側して進まなければならないところもある細長い洞。
- ・11日、乳仙宮の僧侶乗宗から、白鹿洞のいわれを聞き、詳しく記述。

「漢代、親が赤子（蘇耽）を洞に棄てたところ、白鶴が覆い、白鹿が乳をあげていた。その後、蘇耽はこの地で昇仙した」。

⑧ 観音巖 彬州府永興県：4月12日観察

- ・永興県城から北へ耒水を下る途中の北岸。
- ・数人が入れる大ききの洞口が、江の北岸から南に口を開け、観音像が安置されている。
- ・おそらく外から観察しただけで入洞はしていない。

⑨ 直釣巖 衡州府耒陽県：4月13日入洞

- ・耒陽県城手前の、耒水の北岸。
- ・舟を下りて入洞。入口に石柱が立ち、二門となる。中は広く、右の隅を登ると、別室がある。左の隅を進むと大洞となり、岩の隙間から天光が差し込み、円鏡のよう。真下から見上げると、井戸の底から天を見上げるよう。

⑩. 獅子巖 永州府東安県：閏4月4日観察

- ・湖南から広西へ入る手前、湘水の北岸。
- ・江沿いに洞が口を開ける。その奥は岩山を抜けて獅子洞となる、という。
- ・江沿いの口は増水のため水没しており、入洞できない。裏の獅子洞は、炬が必要で、船人が待つてくれないようなので、洞口を徘徊したのみ。

(2) 楚遊日記のまとめ

楚遊日記の洞穴の数について、唐錫仁・楊文衡⁽³⁾は「25」、褚紹唐⁽⁴⁾は「約26」楊載田・熊紹華⁽⁵⁾は、溶洞「40あまり」とする。

しかし、現行の遊記本文を検討した結果、言及・検討されている洞穴の数を「23」とした。内訳は、雲陽山3、永州南部10、九嶷山3、他7である。ただし、永州南部のうち「5」は、現行の遊記本文には、名前のみが記載されるか、あるいは記事が全くないものである。これを数えないとすると、楚遊日記の洞穴数は「18」となる。

洞穴はいずれも鍾乳洞で、雲陽山の秦人洞と麻葉洞、永州南部の朝陽巖と澹巖、九嶷山の斜巖(紫霞巖)、龍洞などで洞穴内の詳細な描写が見られる。水洞と乾洞の両方があるが、水洞の方が多い。徐霞客自身が類型化を行っているわけではないが、楊載田・熊紹華⁽⁶⁾は、澹巖を内部に広いドームがある「庁堂洞」、月巖を岩山を突き抜ける「通山洞」、直釣巖を井戸の底のような縦穴の「通天洞」、麻葉洞と斜巖を幾重もの洞が重なっている「多層洞」と分類する。この他にも、匍匐して入る口径の小さい野石巖、川岸で大きな口をあけるドーム型の観音巖、ドリーネを形成する秦人洞なども観察している。

南岳衡山には「洞」と名のつく場所があるが、洞穴ではなく、岩山に囲まれた場である。

注

- (1) 唐錫仁・楊文衡『徐霞客及其遊記研究』(中国社会科学出版社、1987)。
- (2) 褚紹唐「徐霞客在岩溶地貌上的貢獻」(『千古奇人徐霞客—徐霞客逝世350周年國際紀念活動文集』1991所収)。
- (3) 前掲注 (1)。
- (4) 前掲注 (2)。
- (5) 楊載田・熊紹華「徐霞客對湘南科學地理考察的貢獻」(『千古奇人徐霞客—徐霞客逝世350周年國際紀念活動文集』1991所収)。
- (6) 前掲注 (5)。

4. 第3部 徐霞客遊記全行程(その3) 粵西遊日記一・二

凡例

- ・「行程」で、徐霞客がたどった行程を、遊記をもとに日を追って同定する。
- ・全ての資料で同名の場合は、特に注記しない。
- ・一部の資料で同名の場合は、()で資料の略号を記す。
- ・遊記の表記とは異なるが、当該地であろうと推測される現代の地名は〔 〕で示し、資料の略号を記す。

- ・不詳の場合は〔不詳〕と記す。
 - ・「経由地」で、徐霞客が経由した府県を確認する。明代の府県名で示し、()で現代(2014年)の地方行政組織名を記す。重複の場合は〈 〉で示し、現代の組織名は略した。
 - ・「探訪先」で、山岳などの主な探訪対象を記す。()で別称や別表記を示す。
- 参照した地図・書籍とその略称は次の通り。
- 《広西壮族自治区地図集》編纂委員会編『広西壮族自治区地図集』星球地図出版社、2003 (①)
 杜懷静主編『広西壮族自治区地図冊』中国地図出版社、2013 (②)
 百度地図…ウェブ上の地図：2017年3月27日確認 (BD)
 黄坤『新譯徐霞客遊記』三民出版社、2002 (新訳)

4-1. 「粵西遊日記一」

4-1-1. 「行程」

崇禎10年丁丑(1637)

閏4月

- 6日 湖広永州府東安県羅埠頭〔緑埠頭①、渌埠頭②BD〕を出発し、舟行で湘江を遡り、石衝湾〔不詳〕に泊。
- 7日 西南へ舟行。広西桂林府全州域に入り、楊浦駅〔柳鋪②BD?〕を経て、廟頭〔廟頭鎮①②BD〕に泊。(ここまで「楚遊日記」、翌日から「粵西遊日記一」)
- 8日 舟行。廟頭を出発。山角駅・黄沙〔不詳〕で上陸。顧僕に荷物を持たせ、湘江を遡上して桂林に先行させ、自身は、静聞と陸行。黄沙鋪・双橋・石月鋪〔不詳〕・深溪鋪〔不詳〕を経て、牛頭崗〔石崗①BD?〕に泊。
- 9日 以下本巻は、「桂林—陽朔」の漓江往復以外は陸行。
 巖巖〔不詳〕・張家村〔不詳〕・大沖〔大沖里BD〕・柳山〔不詳〕を経て、獅子巖〔獅子嶺BD〕に泊。
- 10日 湘山寺〔①②〕を経て、全州県城に入城。興安からの船を予約し、城内探索。西へ、石蜆崗〔新訳「石燕」不詳〕・龍隱洞〔不詳〕を経て、杪木渡橋(乾隆本「橋渡」)〔橋渡①BD〕に泊。
- 11日 石鼓村〔BD〕・白沃村〔不詳〕・七里崗(寨墟〔寨圩①BD〕)・閻家村〔BD〕・白竹江〔BD〕・南峒〔南洞①(①は距離が遠すぎる)〕を経て、打狗凹〔不詳〕に泊。
- 12日 大竹坪〔不詳〕を経て、大鼻山の麓の劉秦川の家に泊。
- 13日 越城嶺の金宝頂(真宝頂)探訪。劉の家に泊。
- 14日 西へ、(現代では資源県域に入り)大源村〔不詳〕・洞初〔不詳〕・陳墓源〔陳木源①〕を経て、蘇家大坪〔大坪①②〕に泊。(乾隆本では、更に進み「上梁〔上梁水庫①〕」に泊。)
- 15日 山道。もしくは滞留(記事なし)。
- 16日 快樂庵〔不詳〕。
- 17日 白雲庵〔不詳〕。
- 18日 洞源山中を探訪しつつ、苦煉庵〔不詳〕を経て(現代では全州域に入り)、大坪〔不詳〕・半山嶺〔半山里①BD〕・韭菜園〔韭菜園①②〕を経て、木皮口〔不詳〕に泊。
- 19日 上官壩〔不詳〕・趙塘〔白塘?〕・咸水を経て、興安県域に入り、界首に泊。
- 20日 西南へ、塔兒鋪〔不詳〕・東橋鋪〔不詳〕・小宅〔不詳〕・瓦子鋪〔不詳〕を経て、興安

県城に入城。霊渠を見学。東南へ、獅子寨〔不詳〕・羊牯嶺〔不詳〕を経て、鄧家村の回龍庵に泊。

21日 状元峯（大金峯）・小金峯探訪。回龍庵に泊。

22日 東へ、七里峽〔不詳〕・五里峽〔五里峽水庫①BD〕など経て、再び興安県城に入城。西へ、三里橋〔三里陡①②都市地図〕を経て、隱山寺に泊。

23日 西へ、蘇一坪〔不詳〕を経て、先ず巖関へ。蘇一坪へ戻り、東南へ。董田巨村〔董田①BD〕を経て、洞前の隱山寺に泊。

24日 乳巖〔乳巖洞①②〕探訪。記述簡略。隱山寺に泊。

25日 東南へ観音巖探訪。秀塘〔不詳〕・開州〔開洲①②〕・東劉村〔東流①〕・西劉村〔不詳〕・土橋〔土橋①〕を経て、唐匯田〔新訳「譚美田」、潭美田②〕に泊。

26日 太平堡〔堡里①②BD?〕・劉田〔龍田①?〕・白龍橋〔不詳〕・牛欄〔不詳〕・張村〔不詳〕・廟角〔新訳「廟脚」②〕を経て、霊川県城に入る。海龍庵〔不詳〕に泊。

27日 海陽山〔龍門界①②BD〕探訪。山から下りて、海陽堡〔海陽郷①②BD〕・江匯〔江尾①②BD?〕を経て、黄姓の家に泊。

28日 白爽村〔白礫①BD〕・長冲・鎔村〔雄村①BD、熊村②〕・上橋・寥村〔寥家①②〕を経て、臨桂県城に入り、河塘村〔湖塘①〕を経て、桂林府治の臨桂県城に入城。都司前趙姓家に泊。

29日 臨桂県城滞在。

5月

1日 桂林周辺探訪（～21日）。暈彩山・風洞・明月峯・于越山など。趙姓家に泊。

2日 浮橋を渡り、七星巖・曾公巖など探訪。朝雲巖の閣に泊。

衡山の僧侶融止と偶然に会う。→「楚遊日記」1月29日条参照

3日 朝雲巖の閣で、遊記の整理。午後、融止と別れ、趙姓家へ戻る。

4日 王城・西の隱山・南の雉巖探訪。雉巖寺に泊。

5日 この日は端陽節。午前は友人と宴会。午後、雉巖を下り、楽盛洞を探訪し、雉巖寺に泊。

6日 南溪山探訪。劉仙巖の道観に泊。

7日 劉仙巖探訪。南へ浄瓶山探訪。趙姓家に帰り、泊。

8日 県城を北に出て、劉巖山・洞探訪。趙姓家に泊。

9日 県城南部の五嶽観・象鼻山を探訪。趙姓家に泊。

10日 趙姓家で休憩。

11日 東に浮橋を渡り、龍隱巖を探訪。趙姓家に泊。

12日 西へ、西山探訪。趙姓家に泊。

13日 東へ、辰山探訪。青珠洞・黄鸞巖探索。王慶宇の家に泊。

14日 東へ、矮山・堯山・鉄峯山を探訪し、下山。寨山洞中の石室に泊。

15日 黄金巖、屏風巖探訪。王慶宇と別れ、趙姓家に戻り泊。

16日 趙姓家で休息。

17日 手紙を書く。

18日 融止上人に手紙を託す。

19日 陽朔へ行こうとするも、船が出ず、船中泊。

20日 船が出ず、船中泊。王族が船にやってきてたかる。

21日 漓江下り、舟行。ようやく船が出る。龍門塘〔龍門①BD、大龍門②〕を経て、一旦霊川

県域へ。横山巖〔不詳〕を経て、再び臨桂県域へ。碧崖〔碧崖閣①BD〕・寸金灘・斗米灘を経て、県境の南田站〔草坪①②〕を越え、陽朔県域に入る。画山〔画山①BD〕を経て、興平に泊。

22日 螺蛳巖〔螺蛳山①〕・水緑村〔水落①②BD〕・古祚駅〔古座塘①BD〕を経て、陽朔県域に到着。川を渡り、白沙湾〔不詳〕に泊。陽朔滞在（～25日）。

23日 陸行。東へ県域を出て、書童山・穆山村〔木山①②BD〕を経て、仏力司〔福利鎮①②BD〕へ。旅館に荷物を預け、状元峯〔不詳〕に登ろうとしたが、頂上へは行けない。富教山〔富教①〕の洞穴を探訪。白沙湾に戻り、泊。

24日 白鶴山探訪。

25日 舟行。桂林へ引き返す旅。古祚駅を経て、螺蛳山を探訪。興平あたりで泊。

26日 冠巖などを探訪しつつ北上。途中で上陸し陸行。南田站を経て臨桂県域に入り、船を得、舟行で北上。船中泊。

27日 碧巖を経て、一旦靈川県域を通り、龍門塘よりやや上流に泊。

28日 臨桂県域に戻り入城。趙の子が病気になっていたのので、唐葵吾の家に泊まる。融止上人は既に旅立っていた。

29日 桂林に滞在（～6月10日）。

6月

2日 七星巖・棲霞洞など探訪。

3日 拓本を取る（～4日）。

5日 西北へ、清秀巖（清秀山）探訪。

6日 拓本を取る（～8日）。

8日 拓本のできが良くない。出発の準備。静聞と顧僕が発病。

9日 二人とも病なおらず。やむなく初めて自炊。

10日 一同で、陸行で桂林を出発。顧僕に荷物とともに蘇橋に先行させ、静聞とともに琴潭巖へ向かう。南へ李家村〔李家①BD〕まで行ったところで静聞の病が重くなり、琴潭村へ引き返す。静聞を休ませ、自身は琴潭巖の洞穴探訪。さらにその奥の荔枝巖（大岩：桂林地図）探訪。村を出て、やっと平塘街に至るに、静聞の病気が悪化し、そこに泊。

11日 静聞が伏せっているのので、周辺の洞穴を探訪。静聞を強いて出発。西へ進み、両路口〔路口①②BD〕を過ぎたところで、おくれぎみだった静聞とはぐれる。あちこち探訪しながら西へ進む。通城墟〔不詳〕・上巖村〔不詳〕・高橋〔不詳〕・山蚤鋪〔不詳〕を経て、馬嶺墟〔不詳〕で静聞と合流。繚江橋〔不詳〕・繚江鋪〔繞江①?〕・焉石鋪〔不詳〕を経て、永福県域に入り、蘇橋に至り、顧僕と合流。ここに泊。

4-1-2. 「経由地」

広西省桂林府全州（広西壮族自治区桂林地級市全州県）

同	興安県（同	興安県）
同	靈川県（同	靈川県）
同	臨桂県（同	轄区）
同	陽朔県（同	陽朔県）
同	臨桂県（同	轄区・臨桂県）

同 永福県 (同 永福県)

4-1-3. 「探訪先」

桂林府全州湘山寺 (閏4月10日)

全州金寶頂：観音竹 (同13～14日)

全州洞源山：題龍庵、苦煉庵、蓮塘庵 (同～18日)

興安県城：零渠 (同20日)

興安県状元峯：小金峯、七里峽、五里峽 (同21～22日)

興安県南：乳巖、観音巖 (同24～25日)

靈川県海陽山 (同27日)

桂林府知 (5月1日～21日、25日～6月10日)

陽朔県城 (5月21～25日)

桂林府知西部：琴潭巖、荔枝巖 (6月10日)、榜巖洞、石巖洞、牛洞・中洞・北洞、上巖前洞 (同11日)

4-2. 「粵西遊日記二」

4-2-1. 「行程」

6月

12日 広西省桂林府永寧州永福県域の蘇橋を出発。

舟行。洛清江を遡上し、柳州府知馬平県へ向かう。静聞と顧僕は病気。

(遊記は、小江口で永福県域に入るといふが、合わない)

永福県城、蘭麻灘〔蘭麻分場①〕を通過。

(現代は柳州地級市鹿寨県域に入り) 理定〔新訳「里定」①②〕を経て、新安鋪〔新訳「西岸」①②BD〕に泊。

13日 舟行。旧街を経て、柳州府洛容県域に入る。牛排〔不詳〕を経て、洛容県域に入城、船中泊。

14日 陸行。轎を雇い、静聞を載せ、顧僕を付き添わせる。自らは徒歩で先行。高嶺鋪〔不詳〕・孟村〔不詳〕・馬鹿堡〔馬鹿村①BD〕を経て、馬平県域に入る。羅山を探訪。馬平県城へ至る。郊外の天妃廟で静聞と合流。籠かきが静聞を廟に置き去りにしていた。廟に泊。馬平県城滞在 (～19日)

15日 静聞は廟に寝込む。顧僕ともに馬平県域に入城。すると、今度は顧僕が寝込む。やむを得ず、桂西の程紀を整理する。

16日 廟に静聞を迎えにやったが、静聞は立てないほど衰弱しているという。廟に行き、投薬する。城中に戻り、医者に相談し、顧僕に投薬。柳侯廟などを参観。

17日 柳州府治滞在 (～19日)。

18日 単身で、県城南部を探索。立魚山〔柳州立魚山風景区BD〕のみ。

19日 静聞を無理に寓居に呼び寄せる。自身は、単身西北の融県真仙巖への船に乗る。

以後24日まで舟行。沙際〔不詳〕に泊。

20日 柳江を遡上。古城堡〔新訳「古林」、乾隆本「古陵堡」。古靈①②BD?〕に泊。

21日 柳城県域に入り、杉嶺〔不詳〕・柳城県城〔風山鎮①②BD〕を経て、古旧県〔旧県①、

古城村BD) 泊。

22日 大雨。大堡〔大埔①②BD、現柳城皇城〕を経て、船中泊。

23日 草墟〔龍頭鎮①②BD?〕・馬頭〔碼頭①②BD〕を経て、融県域に入り、沙弓〔沙鞏①②BD〕に泊。川の西岸は羅城県。

24日 舞陽江を遡って、和睦墟〔和睦鎮①②BD〕で上陸。以後7月8日まで陸行。黄花嶺〔蓮塘嶺BD?〕・古宮〔古型②BD?〕・高橋・鷄籠嶺〔不詳〕を経て、陸姓の家〔陸村①②BD〕に泊。

25日 陸氏の案内で西へ読学巖・赤龍巖探訪。東梁に戻り、北上。古鼎山〔①②〕・真仙巖〔老君洞〕探訪。真仙洞に住む僧侶参慧にもてなされる。陸氏は家に帰り、霞客は参慧とともに下山し、一旦融県城へ。老人巖など探訪し、真仙洞に返り泊(～7月9日)。

26日 真仙洞で休憩。石刻(真仙巖記游、真仙洞八景など)を模写。テキストを引用。

27日 石刻を拓本に。

28日 参慧の案内で、炬を持ち、真仙後暗洞に入洞するも、川があつて深くは入れない。舟の算段をし、ひとりで老人巖と香山を探訪。

29日 結局筏を組んで、真仙後暗洞に入洞。さらに劉公巖〔劉公②BD〕も探訪。真仙巖に泊。

7月

1日～2日 拓本取りなど。

3日 周辺の岩山や洞穴を探索。

4日～5日 拓本のできあがりを待つ。

6日 拓本取り、ほぼ終了。雨の中、西に鉄旗巖探訪。安靈潭〔古鼎龍潭①?〕・古鼎を経て、洞に戻る。

7日 巖で出発の準備。

8日 雨で水量が多く、市中で待つ。

9日 午後ようやく融県を出発。融江を下る。

舟行。高街(BD)・和睦墟(既出)を経て、沙弓(既出)に泊。

10日 舟行。馬頭(既出)・楊城〔不詳〕・草墟(既出)・羅巖〔不詳〕・楊柳(楊柳①BD)・大堡(既出)・旧県(既出)・古城〔古重①②BD?〕・白沙湾(白沙BD①)・柳城皇城・古陵(6/20の古城堡か?)・皇沢墟〔不詳〕を経て、船頭をせかして、柳州府治南門に到着、泊。

11日 県城に入り、朱某の寓居に至る。静聞・顧僕は、病未だ癒えず。

12日 柳州滞在(～17日)。王羅源に会おうとするが果たせず。

13日 単身で、馬鞍山探訪。南下して、仙奕巖・立魚巖・寿星巖を探索。ここが馬鞍山の東隅。さらに南の上龍潭を期したが、飯を得る手だてがないので、東へ転じる。対江渡〔不詳〕・屏風山を経て、登山へ。楊文広洞があり、「江底潜通府堂」というが、「今其洞已塞」だった。北へ、姚埠(東門渡)〔不詳〕・王氏山房(東林洞)〔不詳〕を経て、寓に戻る。

14日～16日 在柳寓。

17日 薬を買う。船中泊。

18日 馬平県城を一同で出発。桂平県へ柳江を下る。以後20日まで舟行。石狗湾〔不詳〕・油閘〔油榨①BD〕・羅溝〔不詳〕・山門冲〔不詳〕・南寨山〔不詳〕・馬鹿堡(既出)・羅峒〔不詳〕・鷄臘〔不詳〕・犁冲〔立冲①②BD?〕・羅墳〔不詳〕・横旋灘〔不詳〕を経て、三江口〔江口郷①②BD〕に泊(洛清江が柳江に注ぐ河口)。

- 19日 象州域に入り、賓江〔遠江①②BD?〕・象州県城を経て、武宣県域に入る。大容堡〔新訊「大仁」、①②BD〕・菱角灘〔不詳〕を経て、瀧村〔隴村①BD、上隴②?〕に泊。
- 20日 武宣県城・勒馬堡を経て、潯州府桂平県域に入る。大藤峽（険しい峽谷）・小江口〔不詳〕を経て、潯州府治（桂平県城）に入城し、泊。桂平県城滞在（～22日）。
- 22日 静聞と顧僕を南門に留め、自身は荷物担ぎをつれて勾漏・白石・都嶠山探訪へ。陸行。灘頭村・車路江〔不詳〕・石橋村〔不詳〕を経て、無名の山を探索。山を下り、容塘村〔榕羅村①BD?〕・姚村〔不詳〕を経て、白石山北麓の木角村〔不詳〕に泊。
- 23日 白石山探訪。山中の大寺に泊。梁凌霄と交友する。
- 24日 梁と別れ、白石山を西に下る。周塘・乾冲〔不詳〕を経て、麻洞墟で昼食。石馬村〔BD〕・穿石寨〔不詳〕・大冲を経て、中都峽〔木根鎮①②BD?〕に泊。
- 25日 廻龍墟〔不詳〕・羅播村を経て、横塘渡〔不詳〕を渡り、梧州府鬱林州興業県域に入る。白堤〔不詳〕を経て、大寨村〔不詳〕に泊。
- 26日 大板橋〔不詳〕・馬禄山〔不詳〕・平山村〔小平山鎮①②BD〕・勒菜口〔新訊「楽泰」①BD〕を経て、（現代では玉林市域に入り）松城墟〔新訊「塘塍圩」、大塘①②BD〕に泊。（この日、日記一部欠）。
- 27日 鬱林州域に入り、谷山村〔不詳〕を経て、鬱林州城に入城。東へ、陸川県域の龍塘村に至る。村の上巖を訪ねると、道者がいて案内。上巖に泊（～29日）。
- 28日 鬱林州域の水月洞（水月巖）探訪。上巖泊。
- 29日 上巖から東へ。北流県域に入り、牛隴〔不詳〕・塘岸墟・菓子山〔不詳〕・横林〔不詳〕を経て、北流県城に入城。勾漏山南麓の勾漏庵に泊（～8月3日）。

8月

- 1日 勾漏山の宝圭洞・黄婆巖探訪。
- 2日 役人が游覧に来たので、避け、宝圭洞で身を隠す。石刻を模写。
- 3日 勾漏山を東北へ下り、洛桑渡〔不詳〕を渡り、容県域に入る。すぐ西山墟〔西山①BD〕である。東へ、容県城を経て東南に向きを変え、古楼村〔不詳〕に泊。
- 4日 古楼村を発し、石寨村・石嘴鋪〔不詳〕を経て、都嶠山に入る。南山寺（靈景寺）に泊。
- 5日 都嶠山探訪。容県城へ引き返す。古楼村に宿そうとしたが果たせず、結局容県城に泊。
- 6日 北へ、石頭鋪〔不詳〕・李村〔李屋BD?〕・同山墟〔新訊「松山鎮」①②BD〕を経て、秦窰〔不詳〕に泊。
- 7日 西へ、盧緑塘〔不詳〕・大蟲塘〔不詳〕・長嶺〔不詳〕を経て、石潭村〔石頭鎮①②BD?〕に至る。ここで北へ転じ、潯州府桂平県域に入り、羅秀・盧塘〔露棠①BD?〕・盧忘村〔露風①BD?〕を経て、陳村〔陳屋①②?〕に泊。
- 8日 羅捷〔挿〕〔不詳〕・陳冲・油麻墟・上合村〔不詳〕を経て、陳坊〔不詳〕に泊。
- 9日 桂平県城に帰り着く。二人の病気は、やや回復していた。明日の出発を決す。今回のひとり旅を総括。北流県北の鬼門関に行けなかったことを後悔。
- 10日 舟行。郁江を遡上し、貴県経由で南寧に向かう。大湾・牛欄村〔社歩鎮①②BD?〕を経て、鎮門〔下湾鎮①②BD?〕に泊。
- 11日 白沙（白沙鎮）の少し先で、ひとりだけ上陸。静聞等は貴県へ舟行を続ける。陸行、西に羅叢巖探訪。水洞、龍洞に入洞。山を下り、西へ。厚禄を経て、安禄宮〔不詳〕に泊。
- 12日 西南へ、飄村を経て、臨微橋を渡って貴県域に入る。平碣宮〔大圩鎮①②BD?〕・劈竹

鋪〔不詳〕・黄嶺〔旺嶺①②BD?〕を経て、貴県城に入城。静聞等と合流。泊。

13日 以下15日まで舟行。川が蛇行しており船足が遅いので、単身陸路で南山の探訪をはかるも、船頭に止められる。宋村〔下宋①②BD?〕・瓦亭堡〔瓦塘郷①②BD?〕を経て、香江駅〔香江①BD、香江圩②〕に泊。

14日 烏司堡〔思懐①②BD?〕を経て、南寧府横州域に入る。舟中から馬伏波廟〔伏波廟①②BD〕を仰ぎ見る。烏蛮駅〔不詳〕・麻埠〔不詳〕・謝村〔謝圩①②BD〕を経て、白沙堡〔不詳〕を過ぎたところで船中泊。

15日 清江〔不詳〕を経て、横州県城に入城。州守は同郷の諸楚餘で、手紙を預かっていたが、衡州で盗まれたため、立ち寄らず。南寧行きの船に病人と荷物を載せ、自身は単身で、南の宝華山へ。陸行。建文帝ゆかりの宝華寺に泊。

16日 宝華山より返り、横州県城に入城。泊。

17日 一同で横州を発つ。以下23日まで舟行。南江〔南郷鎮①②BD?〕を経て、陳歩江〔不詳〕に泊。

18日 飛龍堡〔飛龍郷①②BD〕を経て、東隴堡〔不詳〕のやや上流で船中泊。

19日 火煙駅〔不詳〕で永淳県域に入り、北に転じる。緑村〔不詳〕、高村〔①BD〕を経て、永淳県城〔巒城鎮①②BD〕に入城し、泊。

20日 鹿頸堡〔六景鎮①②BD?〕を経て（現代では南寧市邕寧県域に入り）、伶俐水〔伶俐鎮①②BD〕を通り過ぎて、少し先で船中泊。

21日 大蟲港〔不詳〕・留人峒〔不詳〕・八尺水の合流点である黄范〔邕寧県蒲廟鎮①②BD〕を経て、左峯〔不詳〕に泊。宣化県域に入る。

22日 舟中から青秀山を仰ぎ見、私塩渡〔不詳〕・白湾〔不詳〕を経て、亭子渡〔不詳〕に泊。

23日 南寧府治（宣化県城）に入城。

（23日～9月8日、遊記欠落。霞客自身が、原稿を紛失したらしい。）

9月

9日 宣化県城北の、羅秀山探訪。…断片で、「独登羅秀詩」から「九月九日」と判断（夢良）
（9月10日～21日、遊記欠落）

4-2-2. 「訪問地」

広西省桂林府永寧州永福県（広西壮族自治区桂林地級市永福県）

		（ 同	柳州地級市鹿寨県）
同	柳州府洛陽県	（ 同	轄区）
同	馬平県	（ 同 ）	
同	柳城県	（ 同	柳城県）
同	融県	（ 同	融水苗族自治県）
		（ 同	柳江県）
同	象州	（ 同	来賓地級市象州県）
同	武宣県	（ 同	武宣県）
同	潯州府桂平県	（ 同	貴港地級市桂平市）
同	梧州府鬱林州興業県	（ 同	玉林地級市興業県）
同	鬱林州	（ 同	轄区）

同	陸川県	(同	陸川県)
同	北流県	(同	北流市)
同	梧州府容県	(同	容県)
〈同 潯州府桂平県〉			
同	貴県	(同	貴港地級市轄区)
同	南寧府横州	(同	南寧地級市横県)
同	永淳県		
同	宣化県	(同	轄区)

4-2-3. 「探訪先」

柳州府馬平県羅山 (6月14日)

馬平県城：開元寺、柳侯廟 (同16日)

馬平県馬鞍山：立魚巖 (同18日)、仙奕巖、立魚巖、寿星巖、屏風山、登台山 (7月13日)

融県：読学巖・赤龍巖 (同25日)

融県真仙巖：後洞、劉公巖、水洞、鉄旗巖 (6月25日～7月9日)

潯州府桂平県西の無名の山 (7月22日)

桂平県白石山：三清観、会仙岩、大寺 (同23日)

浯州府鬱林州陸川県水月洞：上巖 (同27日～29日)

北流県勾漏山：宝圭洞、黄婆巖 (7月29日～8月3日)

容県都嶠山：霊景寺 (霊景巖)、三清観 (三清巖)、玉帝殿 (宝蓋巖) (8月4日～5日)

桂平県羅叢巖：水洞、龍洞 (同11日)

南寧府横州宝華山：宝華寺、鳳凰山 (同15日～16日)

宣化県羅秀山 (9月9日)

以上

(2017年3月28日提出)

(2017年4月17日受理)